

辰野町国民健康保険運営協議会議事録

日 時	平成26年2月26日(水) 午後3時～午後4時
場 所	辰野町役場 第7・8会議室
出 席 者	野竹泰也・瀧川和恵子・金子文武・吉田まゆみ 各1号委員 三堀善業・岩田清・矢ヶ崎紀男・臼田和広 各3号委員 有賀克明 4号委員 町長 事務局 向山住民税務課長・赤羽国保医療係長・中村諸税係長 田中専門員・入原保健師・樋口係員・松澤係員

1. 開会のことば	向山住民税務課長より開会のことば
2. 会長あいさつ	平成29年度には県での運営になるようだが、それまでは各市区町村での運営になるのでよくご審議いただきたい。
3. 町長あいさつ	先日の大雪で、交通機関の麻痺や孤立など日頃の備えが問われる出来事があり、保険事業にも同じ事が言えるのではないか。予測を立てたり事前の策で良いものを選んでいき、難しい決断を迫られたりする時もあるが総体的に見て良かったとなるようにできれば良い。
4. 議事録署名人の指名	今回は、金子文武委員と臼田和広委員に議事録の内容の確認をお願いします。
5. 議事 (1) 平成25年度決算見込みについて	赤羽係長より別紙資料により説明 田中専門員より別紙資料により説明 議長より質疑が受け付けられる 岩田委員：歳出の出産育児金が増えているが、見込みとしては何人分の見込みなのか。 赤羽係長：約8人分と見込んでいる。 会 長：被保険者も減ってきている。 赤羽係長：65歳以上の方で一定の障がいがある人には後期高齢者医療制度に移ってもらったりなどもしている。 有賀委員：前期高齢者に対する歳入が1億円近く増えているが、その原因はどのような理由なのか。辰野町の被保険者のかかった医療費が原因なのか。 赤羽係長：医療費が原因ではない。国保へ加入するこの年代が多いということもあるかと思うが、これは国で示された金額である。団塊の世代が増えているということだと思う。
(2) 平成26年度予算について	・国民健康保険特別会計 赤羽係長より別紙資料により説明 ・第一診療所特別会計 赤羽係長より別紙資料により説明 ・川島診療所特別会計 赤羽係長より別紙資料により説明 ・国民健康保険税 中村係長より別紙資料により説明 議長により質疑が受け付けられる

	<p>金子委員：予算上での被保険者数と、消費税の増税に伴って医療費の跳ね返りを見込んでいるのか教えていただきたい。</p> <p>赤羽係長：3, 205世帯、被保険者数5, 530人で見込んでいる。消費税増税については現在の医療費が昨年より減ってきているので、同じだけを見込んでいる。医療費削減にも努力をしていて退職国保の医療費が減ってきているので、一般国保の医療費をなんとか退職国保分でカバーしたい。</p> <p>吉田委員：特定健診の受診率が低いと後期高齢者への支援金が増えると説明があったが、自分の周りは特定健診が何だか分かっていない人や受ける気もない方が居るが、保健事業に力を入れたいということに繋げて考え、特定健診受診者を増やす方法は考えているのか。</p> <p>赤羽係長：広報や通知を出す際には必ず載せているし住民説明会を行うなど、沢山の 방법으로受診勧奨を行っている。後期高齢者への支援金については目標数値へ届かない保険者が多すぎて、最終的には保健指導を全く行っていない保険者が対象となった。今回辰野町は対象となっていないが、これからも受診率向上の努力はしていく。</p>
(3) 特定健康診査実施状況について	<p>入原保健師より別紙資料により説明</p> <p>議長より質疑が受け付けられる。</p> <p>吉田委員：特定健診は血糖値の検査もあるのか。</p> <p>入原保健師：特定健診では血液と尿の中の血糖値の検査をしている。</p> <p>有賀委員：特定保健指導の終了率が上がってきていることは良いことだが、実際に指導後の効果はどのようになっているのか。</p> <p>入原保健師：終了された方の体重の減少をまとめたが、23年度が平均-2kg、24年度が平均-1.5kg。国の基準は1.5kgの変化があればプログラムの有効性があることになっている。翌年の健診結果を見ると、保健指導を受けた方の平均は-2.7kg減。保健指導を拒否した方は体重が増えたという結果も出ている。このようなPRが足りないと感じているのでデータ結果でのPRをしていきたい。</p>
(4) その他	<p>岩田委員：来年度以降の見込みを教えていただきたい。</p> <p>向山課長：今年度と同じ収納見込みなら良いが、医療の高度化などにより医療費が上がってきているのは事実。医療費が読めない中での26年度現状の保険税で予算を組んだ。基金についても県より医療費の5%を基金で持っていると言われていて、来年度の決算で大きな黒字になれば基金へ積めるが、なんとか赤字にならにようにやっているのが現状。26年度については上げずにいきたいが、27年度以降については約束できる状況ではない。</p> <p>特定健診などの積み上げの中で健康寿命を伸ばしていただくという医療費総体を抑えていけば、保険税を上げる日を遠くへ伸ばすことができる。特定健診など住民の皆さまの意識付けが大切だと感じる。</p> <p>岩田委員：年度途中で保険税を上げたことは過去にあるのか。</p> <p>向山課長：把握している中では無い。税を年度途中で上げることはとても難</p>

	<p>しいことなので、基金を取り崩したり、一般会計での法定内の繰り入れなど。</p> <p>岩田委員：次に国保税を上げるときには、基金を積むことも考えていかなければならない。</p> <p>向山課長：今後財政の検討のときにはまた意見をいただければと思う。</p> <p>吉田委員：診療所の患者数が減っているのはどういうことか。</p> <p>町長：毎日診療しているわけではないし、緊急性でかかる人はいないと思う。慢性疾患の方で移動手段がある程度確保できる人は大きい医療機関へ行くのではないか。患者数が減っているのではなく、他へ移っていったということ。</p> <p>吉田委員：休診日は保健師が見回ったり看護師が来たりなどの体制は取れないか。</p> <p>町長：診療所が1つも無い保険者もある。2つもあるということは恵まれているのではないか。</p>
6. 閉会のことば	向山課長より閉会のあいさつがあり閉会